

# 第6回 東区 健康ウォーキングの つどいマップ

東区役所～二葉通り～饒津神社～広島東照宮  
～尾長天満宮～東区役所  
(距離: 約5.5km) 平成24年11月4日



**広島東照宮**  
休憩

**尾長天満宮**  
休憩

**光が丘山根公園**  
休憩

**饒津神社**  
休憩

階段を上らないコース  
「光が丘山根公園」経由で「尾長天満宮」へ  
向かいます (広島東照宮には寄りません)

**東区役所**  
ゴール

**広島駅**

**スタート**

### ① 新幹線口ペデストリアンデッキ

「二葉の里地区の整備に関する基本協定」により、広島駅と新幹線口の開発地域を相互に連絡でき、快適で魅力的な歩行者ネットワークが形成されるよう整備される施設である。3つのペデストリアンデッキの整備が進められ、現在は一部が完成している。新都心成長点として重点地区に位置づけられた広島駅周辺地区では、再開発の推進による都市機能の強化が取り組まれている。

広島市ホームページより

### ② 二葉の里土地区画整理事業

平成22年度から実施されている事業。二葉通りの拡幅、地区内の区画道路、公園・緑地等の都市基盤施設について整備中である。また、高精度放射線治療センター(仮称)、広島高速5号線の広島駅北口出入口、イズミ本社ビル兼店舗等の建設が開始され、店舗は平成24年11月に開店が予定されている。また、浸水被害を少なくするため一時的に雨水を貯留するための下水道管(貯留管、直径4m)をトンネル工法(地下約9m、延長約1.2km)で造る工事等が行われている。

広島県ホームページ、広島市ホームページ、広島市下水道局資料等より

### ③ 饒津神社

9代藩主斉肅が天保6年(1835年)に藩祖長政公の御霊を祀るため社殿を現在の場所に造営した。祭神は後に、長政の室末津姫、幸長、長晟、長勲が合祀された。昭和20年(1945年)に原爆で社殿等は全て焼失したが、戦後再建され、昭和59年(1984年)に本殿・拝殿を復元、平成12年(2000年)に向唐門が再建された。また、平成17年(2005年)には木造の両部鳥居が再建された。

歴史の散歩道リーフレット、広島市ホームページより

### ④ 広島東照宮

徳川家康公の霊を祀るため、浅野2代藩主光晟公が慶安元年(1648年)に造営した。光晟公の生母・振姫が家康の三女であった関係から、東照宮の造営に特に熱心で、京都から多くの職人を招き二葉山(尾長山)の麓に華やかな漆塗りの社殿を造った。原爆によって本殿と拝殿を焼失したが、昭和40年(1965年)再建された。唐門や翼廊も、爆風で傾いていたが、平成20年から3年計画で改修された。

広島市ホームページより

### ⑤ 尾長天満宮

学問・書道の神として菅原道真公を祀る神社。道真公が九州大宰府に左遷された際、当事海辺であった二葉山(尾長山)の麓に船を寄せ山中で休憩をしたといわれるゆかりの地である。後に村人が祠を建てたことが始まりといわれ、安芸守であった平清盛公がこの地を通った際、激しい豪雨に見舞われ絶体絶命に追い込まれたが、菅原道真公の御加護を祈ると九死に一生を得、その神徳を感じ社殿を建設したといわれている。また、裏山は、現在は暗渠化された天神川の源流である。

広島市ホームページより

平成24年(2012年)11月4日

東区公衆衛生推進協議会・東区スポーツセンター

財団法人広島市未来都市創造財団 二葉公民館・東区厚生部健康長寿課